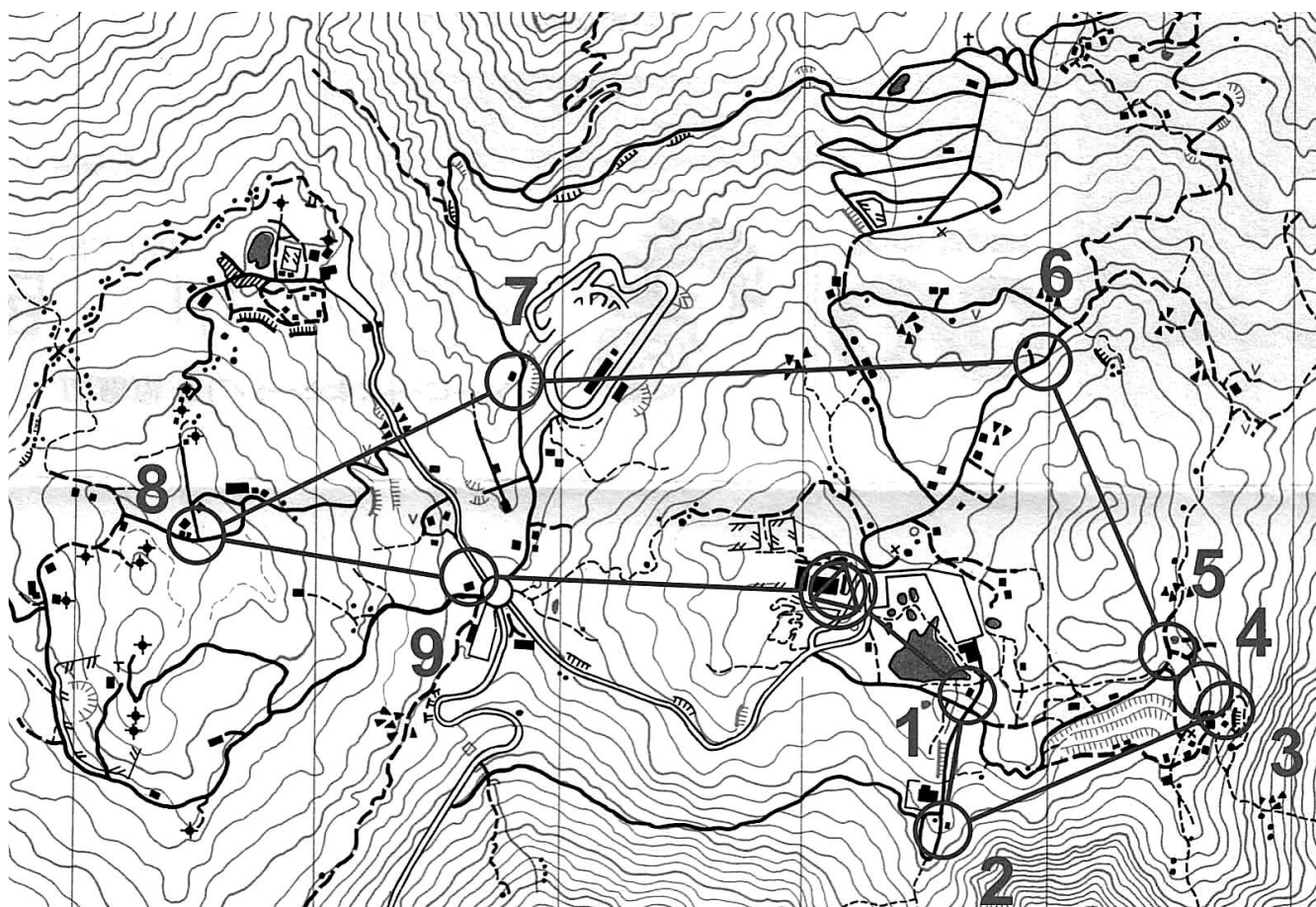




山と瀬戸内海の明るい風景。
気楽に訪れたいコース。

「野呂山」コース 広島県 No.8
JOA 公認 No.138 10km 9 ポスト

広島から至近距離

広島からふらりと立ち寄れる野呂山コースが今回のターゲット。平成11年9月に1度訪れたコースで、丸10年ぶりの再訪です。

シルバーウィーク最中のこの日、近くのマツダレンタカーで足を調達して自宅を出発したのはお昼過ぎ。有料の広島呉道路で広島湾を短絡すると、広島-呉間はあっという間です。安芸川尻駅先からさざなみスカイラインを右に左に蛇行しながら登っていくと、野呂高原に導いてくれます。出発から1時間余りでスタート地点の野呂高原ロッジに到着。標高800m、麓とは4〜5度は気温が下っているはずで、車を降りた途端、夏を色濃く残すこの時期で

も爽やかな風に包まれます。



スタート地点の野呂山ロッジ

澄み渡る青空のもと、以前の印象のままの案内板とマスターを確認してロッジの受付でマップを請うと「以前はあったのですが、今はもうないですね」と、つれない返事。すっかり慣れっこになったこうした事態に備えて持参した、前回のマップを片手に歩くことにします。これから歩かれる方は広島県協会で入手してからお出かけください。



スタートは14時21分。小高いスタート地点から東へ下ると左手の奥に巨大な石碑が出現します。経済産業大臣指定伝統工芸品ともされている地元の名産品「川尻筆」にちなんで設置された筆塚で、「百有余年、現材毛を提供せし数多くの獣類の霊」が祭られています。



ビジターセンターの広い駐車場を通り抜けると水池に到着。冬には氷が張るという池も、この時期はまだ穏やかな表情を見せています。地図上に記載のある建物の姿とともにあるはずのポストもすぐには見当たらず、諸とも消失したのかと危惧されましたが、林の奥座敷に鎮座していました。1度訪れているのに、すっかり忘れていたようです。

瀬戸の展望

第2ポストはコース最南端。少々出戻りとなる区間です。ちなみにこのコース、こうした出戻りが多く、コース設定に苦慮したことが伺われます。くだり気味に進むと展望台が見えてきます。ポストはその手前の林の中。道からは確認できないので、慎重に探しましょう。かぶと岩展望台と名づけられたそのスポットは、下蒲刈島、上蒲刈島が浮かぶ瀬戸内のみならず、遠く四国山地まで見渡せる抜群の景色。空に雲ひとつないこの日は、最高の展望日和でした。



玉すだれの滝・・・水が無い

よく整備された山道を短絡し、東へ

向かいます。向かった先は弘法寺。同名の寺は、北は青森から南は鹿児島まで全国各地に存在しますが、平安時代に弘法大師が修行を積んだ場所とのいわれがあるようです。第3ポストは境内から玉すだれの滝に向かう遊歩道の途中に設置されています。ちょっと寄り道をしてびょうぶ岩と、水が染み出しているようにしか見えない滝を見学。ぐるりと一巡りして弘法寺に戻ります。

第4ポストは野呂山山頂。地図で受ける印象よりもアゴの上がる坂道を進むと、三等三角点を示す立派な案内板があり、ポストを探すとこれまた林の奥に佇んでいました。この地点の標高は788.84m。

軽快に山を下っていくと、早くもポストが見えてきます。一瞬おやつと思ったのは、前回歩いたときの第5ポストは更に北へ向けて進んだ山道の途中にあり、今回もその地図で歩いていたため。スタート地点の案内板も修正前のマスターが掲示されています。地主の意向でもあったのか、現在は林に入る手前の分岐に移設されています。

第6ポストへはひと気のない森の中を進みます。散在する岩石を確認しながら道なりに歩むと、道端にあるポストはあっさりと見つかります。

ここから北に下って第7ポストへ向かうルートも存在しますが、距離も長い上に無駄な上り下りを余儀なくされます。そこで、いったんスタート地点のロッジの下を経由するルートを選ぶのですが、この回り方だと最終ポストからゴールまでの区間が、同じ道を引き返すこととなります。

その最終ポストがあるのは野呂山十字路ロータリーのすぐ近く。これは、中心に島を設け、周囲を右回りに還流するという方式の交差点のこと。正しくは、還流に進入する車を優先するのがロータリーといい、このように還流を優先するタイプはラウンドアバウトと呼ばれます。

ここから北に下っていくと第7ポストがあるのですが、10年前とは様相が変わっています。その大きな要因は道路の拡張。従来の道の東寄りを掘り下げて新道が造成されたことから、道から下ったところにあったポストが、特に移設をした訳ではないのに、今では道と同じ目線となっています。旧道の一部が高い位置に残っていたことで、それがよく理解できます。道路の造成後、ポストの目の前に金網まで設置されてしまい、「外に出してくれ!」と叫ぶ声が聞こえてきそうです。

ロータリーまで引き返し、最終ポストを再び掠めつつ、電波塔の立ち並ぶ膳棚山へと向かいます。グーグルマップで確認する限りでは、地図表記のルート以外にも第8ポストへは、ロータリーから真西に向かってから右に分岐する道が通じているようです。この日は、従来のルートを登り詰め、分岐に立つポストに再会します。初めて訪れる方はこのポストに驚くことでしょう。コースで唯一、古びた鉄製のポストが現役で、赤錆に包まれながらも毅然と立っています。10年前と比べると錆も色濃くなり、やや傾きつつありますが、まだまだ頑張れと声援を送りたくなるポストです。

夕方の5時を回り、足元に伸びる影の背丈も随分と長くなってきました。またまた同じ道を引き返し、何度もニアミスをしながらも姿を確認できていない最後のポストに向かいます。ここからゴールまでは来た道に戻るだけ。ほとんど終わったような気分です。ロータリーから建物前の空き地に入ると、ポストは繁みから首だけをひょっこり覗かせていました。これならロータリーから見えないわけです。最後は歩道の芝生を踏みしめながらロッジに向かい、17時36分にゴールイン。レンタカーの返却時刻が迫っていたため、余韻に浸る間もなく野呂山を後にしました。



藪から顔を出している最終コントロール

10年ぶりの再訪も気軽に楽しむことができることに、嬉しい気持ちに包まれた今回の踏破。1度歩いたコースでも、こうして何度も利用することが、PCを存続させる後押しになるに違いありません。来たれ、オリエンティア!

(2009年9月20日 踏破)

(大高竜亮)